

委員会視察報告書

委員会名	議会広報広聴常任委員会
視察地	新潟県佐渡市
調査項目	議会広報・広聴の取組（広報に関するご意見・ご感想フォーム、SNSの活用、議会だより表紙コンテスト）について
調査目的	佐渡市議会の先進的な取組の運用方法、効果、課題を調査し、本市議会の広報・広聴活動の改善につなげるため。
日時	令和6(2024)年7月31日（水）午前9時～11時
場所	佐渡市役所3階 第1委員会室
調査概要	1 議会広報に関するご意見・ご感想フォームについて （1）フォーム構築の経緯と開始時期について ・令和4年4月～開始。議会だよりへの意見は常に募集しているが、インターネット普及にあわせてフォームを構築した。 （2）フォームの運用体制について ・佐渡市議会の専用フォームに投稿があると、議会事務局に通知される。その場で回答せず、広報特別委員会で検討した後に、紙面で回答する。 ・従来から議会だよりで質問を募集していたが、時代にあわせてシステム変更の際に専用フォームを設けた。 （3）市民の反応について ・寄せられる意見は年2～3件程度。 ・内容は記事への疑問点、審査過程、質問・発言回数、要望、議員欠席の理由、傍聴アピール等。 （4）意見・感想を反映した具体的な事例について ・感想フォームではないが、令和3年に議会広報についてアンケートを取ったところ86件回答があった。その中で会派の紹介を求める意見があり、議会だよりにおいて反映させた。 ・その他「常任委員会報告のトピックスが市民にはわかりにくい」、「議案の審議結果の中で、経過、審査の内容も記載してほしい」等の意見もあったが、現時点で反映はしていない。

2 SNSの活用について

(1) SNSの導入について

- ・議会広報のレベルを全国標準まで上げることを目標として、令和2年8月～開始。導入当初はアカウント設定、操作に苦労した。
- ・コロナによる傍聴規制を機にSNSによる発信に注力するようになった。それまで一般質問だけはHPで公開していたが、市民に議会の様子を伝えるためにSNSを導入した。
- ・市民の反応はコメント欄や視聴回数を通じて確認しているが、開始前と比べてそう大きな変化はない。

(2) Facebook、YouTube の管理・運営体制について

- ・外部委託せず議会事務局庶務係（2名）が管理している。
- ・発信ルールは内規で「やってはいけないこと」を定めている。
- ・スピード感が求められるため、閉会后、速やかにUPするよう努めている。
- ・サムネイルは議会事務局職員が作成している。
- ・市民に関心を持ってもらいたいために試行錯誤している。

(3) Facebook、YouTube のコメント欄について

- ・生の意見や反応を知るためにコメント機能をONにして投稿できるようにしている。
- ・ただし炎上のリスクがあるため、回答はしない。

(4) SNSの活用による効果について

- ・地元にケーブルテレビがあり、従来から議会中継を放映していた。YouTubeでの配信により、ケーブルテレビ非視聴者も視聴できるようになり、差が埋まった。

3 議会だより表紙コンテストについて

(1) 実施の経緯

- ・市民から議会だよりを手にとってもらいたいと考えた。
- ・それまでは表紙写真を公募する等していたが、あきる野市議会での表紙コンテストを参考に、73～76号の中から一番良いと思うものを選んでもらうアンケート形式とし、1回実施した。1位になった75号の中吊り広告風の表紙は鷹栖町議会だよりを参考にした。

- ・ただし応募はほとんど無く、その後の反響（議会だより読者増加への影響など）は把握する材料がない。

（２）表紙デザインの考案について

- ・議会広報特別委員会で協議して決定している。
- ・持ち回りで広報委員が考案するが、事務局職員のアイディアを取り入れることもある。

（３）議会だよりの編集・デザインについて

- ・印刷業者と年度始めに打ち合わせを行い、決定する。

（４）議会だよりの作成・構成フロー

◆発行

- ・発行回数・部数 年４回、１回当たり 20,700 部
- ・１号のページ数 20 ページ(固定)
- ・予算額 印刷製本費 2,957 千円

◆編集

- ・定例会開会日から３回編集委員会を行い、２か月後の１０日に発行(６月定例会号は８月９日発行)

【編集のスケジュール】

①第１回委員会開催 ６月１７日(定例会中)

- ・企画内容の確認、工程スケジュールの確認等

②定例会最終日に各議員に原稿依頼

- ・事務局は、議員の作成・校正済み原稿を確認し、手書き原稿はワードにて電子データに変換。必要に応じ写真、イラストなど手配。
- ・質問議員の作成した原稿を担当委員が未定稿の議事録と比較し、確認。
- ・その後、印刷業者に依頼する。

③第２回委員会開催(７月１２日)

- ・委員相互で各記事の読み合わせ、表紙デザイン、レイアウト等を確認、協議する。

④初稿校正 印刷業者へ(７月１７日)

⑤第３回委員会開催(７月２２日)

- ・終了後、全事務局員で最終確認を行う。訂正があつた場合には広報委員にメールにて連絡。

⑥校了(７月２５日)

⑦納品(８月２日) 本庁、各支所、行政サービスセンターで各自

治会へ配布準備を行う。

⑧発行(8月9日)

◆主な掲載内容

- ・定例会・臨時会の主な審議事項
- ・一般質問・代表質問
- ・議案等の審議結果
- ・議案に対する賛否状況
- ・行政視察報告 等

*佐渡市議会だより表紙コンテストの結果
(画像は佐渡市議会だより78号より引用)



視察の様子



(議場)

	 (庁舎入口)
質 疑 応 答	質問 お問合せフォームの利用による市民からの質問や意見は、導入前と比べてどれだけ増えたか。 回答 1割程度は増えている。 質問 広報が特別委員会である理由は。 回答 前例に基づく。常任委員会化への声もあるが、議員定数等の問題もあり、特別委員会としている。 質問 お問合せフォームによる意見・質問事項の公開範囲、回答の仕方は。 回答 議会広報特別委員会は全ての意見・質問の内容を知ることができるが、公開はしていない。議会広報特別委員会で回答が必要な意見・質問を精査し、事務局が回答を作成する。 質問 SNSに関する作業のために議会事務局の人員は増えているのか。 回答 人員は増えていない。議会事務局職員の業務量が増え、負担となっていることは否めない。 質問 SNSの発信ルール、内容の決定は。 回答 ガイドラインは内規を定め「やってはいけない」ことを記載。速報性が求められるが決裁が必要なので、議長もしくは広報委員長の判断で投稿という扱いにしている。コメントには炎上防止のため回答しない。炎上案件は削除することも定めている。

質問 SNS にコメント機能を設けながら回答しないことの意味は。

回答 視聴者の反応を見たい為。ただし今後の検討でコメント機能をOFFにする可能性はある。

質問 議会事務局職員はどの程度、議会だよりの編集作業に関わるのか。

回答 議員とともに作業している。異動によりリセット、ゼロスタートとなるリスクもあり、その際は引継ぎを綿密に行う。

質問 一般質問の紙面構成（イラストや写真の有無）は各議員に任せるのか。

回答 質問者の意図を尊重しつつ、わかりやすさを重視し、イラストや写真をできるだけ挿入するよう心掛ける。

質問 議会事務局と議員の意見が一致しないことはあるか。

回答 対立とまでは行かないが、意見が割れることはある。サムネイル作成時にイラストレーターを導入する際には意見が割れたが、結局導入した。

質問 議会だよりの表紙について今後の方向性は。

回答 75号の表紙（中吊り広告風）は物議を醸し、賛否両論の意見があった。毎回コンセプトが異なると、議会だよりのものを認識してもらえない（75号は議会だよりの思わず処分した、との市民の声もあった）パターンは同じにしていきたい。ただし、市民から手に取ってもらえるように議会が努力してきたことは良かったと自負している。

質問 議会報告会等、広聴活動は行っているのか。

回答 議会報告会は行っていない。ただし、今年度から施行した議会基本条例においては、市民に参加していただく議会づくりを謳っていることから、今後の実施に向けて検討したい。

質問 YouTube、Facebook 以外の SNS 導入は考えているか。

回答 Instagram は必須との意見がある。ただし写真がメインの SNS なので記事の作り方が難しい。Xは携帯番号入力が必要のため及び腰となっている。

	質問 議員個人のスキルや、その時々委員の考え、個性によって変わることはないか。 回答 表現のためのツール多様化はしているが、自分が撮影したものを表現することに慣れていない議員もいる。 質問 広聴の機会を設けているか。 回答 議会基本条例の策定過程で議論したが、議会報告会や意見交換会のような広聴会はやってこなかった。今後の導入に向けて試行錯誤している。
委員会所感	【星野幸彦委員長】 佐渡市議会は議会だより表紙コンテスト・SNSやYouTubeによる発信等先進的な取り組みが行われており、以前から視察したかった地である。視察において感じた事は佐渡市議会は『議会広報特別委員会』であり、常任委員会ではなく特別委員会である事が結果委員長の判断に任される事が多く、逆に新しい事に取り組みやすい流れとなっていると聞いた。名前の通り現在広聴機能は無いとの事であったが、色々な取り組みにチャレンジしている姿は大いに見習っていくべきと感じた。柏崎でもSNSの導入については必要性や有効性も感じ検討をすべきと思うが、佐渡市においては議会事務局の負担がかなりあるようで実現するためには色々な課題を整理する必要がある。 【三宮直人副委員長】 表紙コンテストは市民から議会だよりの作成に参加してもらい、少しでも議会に関心を寄せてもらう取り組みである。柏崎市議会においても「特集」に市民の活動を取り上げており、佐渡市と同様な取組がされていると思う。また、議会広報に関する問い合わせフォームについては SNS ツールを使っているが事務局の負荷と得る効果で問題があるようだ。柏崎市においては 2014 年に議会改革の一貫としてアンケートを実施し広報誌について意見を集めた経緯があり、その後の広報誌のリニューアルにつながった。SNS ツール他を使いギカイのとびらを手に取って読んでいただいているのかに絞って意見を集める手段を考えてはどうか。 【山崎智仁委員】 議会広報に関する意見・感想フォームについては、寄せられ

る意見が議会広報に関すること以外の内容も多いことが課題であることがわかった。フェイスブックなどの SNS 活用に関して、市民の反応を知る目的でコメント欄を解放している点などに関して、工夫の余地を感じた。議会だよりの編集作業に関しては表紙コンテストなどの試みやデザインやレイアウトの工夫について知ることができたが、レイアウトソフトの導入など、事務局職員への負荷が高くなることもわかり、さまざまな課題を知ることができた。

【三嶋崇史委員】

令和4年から議会だよりをリニューアルし、市民に親しみやすい内容になった。まず、第一印象は斬新な表紙に目を奪われる。写真だけではなく、イラストを活用したデザインは私の考えにはなく衝撃を覚えた。

また、広報の部分でSNSを導入し発信している。立上げ当初様々な苦労があったということだが、市民を始め周知する目的として、気軽に情報発信ができ、興味や関心を持ってもらうことは大きな利点である。しかし、作成・発信者の負担を考えると当市での導入には、もう少し時間を掛けた協議が必要である。

【近藤由香里委員】

佐渡市議会では、お問合せフォーム、SNSの活用、議会だよりの表紙コンテスト等、市民の市議会への関心度を上げるために、様々なチャレンジを重ねていることがよくわかった。

その一方で、新たな取組によって議会事務局職員の負担が増える側面や、チャレンジしても求める効果に中々つながらない現状もあり、試行錯誤している様子が窺えた。

柏崎市議会においては、広報広聴の既存の取組ひとつひとつを振り返り、継続すべきか変更が必要なのか、しっかりと協議するべきである。その上で新たな取組にチャレンジするのであれば、議会事務局職員に極力負担をかけないように、議員（広報広聴常任委員会の委員）自らが汗をかく覚悟で進めなければならないと思う。

尚、これから無理にSNSを導入しなくても、情報を得やすいよう柏崎市議会ホームページやYouTubeを整理し、既存のお問合せフォームをうまく活用することで、広報広聴の機能を高められるのではないかと感じた。

【西川弘美委員】

SNS 発信の詳細について疑問に思うところをお聞きすることができた。SNS 発信に関するトラブルへの対応については内規を作り、今のところトラブルはないとのこと。投稿・編集作業、管理などは外注ではなく議会事務局がフル活動し行っているとのことだった。他、アカウントの問題や、発信の即効性を求められるが故の業務負担など課題もあるようで、特に議会事務局職員のご苦労には頭の下がる思いであった。

佐渡市で令和3年に行った議会広報に関するアンケート調査資料もいただき、その内容が非常に興味深かった。当市においてはどうか？今後調査していく必要性を感じた。

【五位野和夫委員】

- ・議会広報に関するご意見・ご感想フォームやSNSやYouTubeの活用は外部委託せず、職員と議員で運営されている。運営のマニュアルが整えられるとしても、柏崎市議会で行き届いたとした場合、議員任期の年度によって対応できる議員が多いか少ないかによって、運営の質が保てるかという不安がある。

- ・議会だより表紙コンテストは多くの市民が、議会だよりにかかわる機会となると考える。

しかし、発行のたびに表紙が大きく変わる事は手に取る市民にとって評価は分かれたとの事であり、基本的なレイアウトを維持しておくことは必要であると感じた。

【相澤宗一委員】

- ・議会広報に関する意見・感想は、市民の方々それぞれに持っているはずで、それを表現できるツールがあることにより、議会をより身近に感じ、関心を高める効果があると感じた。ただし、意見に振り回されないよう扱わなければならない。

- ・SNSの導入にて職員の業務量が「グッと上がった」との本音を聞いた。速報性（スピード）が求められる中、手続き重視の組織においてはその整理が必要である。また誹謗中傷については全国的に昨今指摘され、気を付けるようにあるものの減らない状態であり、導入においては考慮する必要がある。

（佐渡市内では現状発生していないとのこと）

- ・議会だよりを手にとって読んでもらうための表紙コンテスト

	も、奇をてらいすぎるといつもと違うことから気づかれないなど評判は賛否大きく割れたとのこと。おや？っと思わせる引き込み技も表紙負けしない作りが求められるため、バランスを考慮しただよりを心掛けたい。 【阿部基委員】 佐渡市議会における SNS の導入や議会広報などについて、学ばせていただきました。 Facebook や YouTube を外部委託することなく、議会事務局職員 2 名で対応しており、タイムリーに議会の情報発信を行えるよう取り組んでいました。 また、回答は行わないものの敢えてコメント欄を設け、反響を確認していることは戦略的と感じました。 目的を定めて、情報発信を行うことは重要な視点であり、柏崎市議会としても更に調査、研究を行い、時代に適した情報発信が必要であると感じました。 【春川敏浩委員】 議会だよりの表紙コンテストは、一定のルールを設け市民に見やすく、分かり易いものとした。一般質問の掲載は、イラストや写真を議員の判断により使用しているが決まりはない。会派紹介では、議員目線で記載してしまうので市民には分かりづらく表現には反省点もあると振り返っていた。編集については、議会事務局が中心となって作成に献身的に携わっていると感じた。 SNS の導入については、YouTube、Facebook の開設は外部委託はなく、事務局の負担は増加していると伺う。佐渡市は、ケーブルテレビが配信されており SNS 効果に疑心暗鬼になっていたのが印象的であった。 市全体のホームページリニューアルは令和 3 年 3 月に内容を刷新し、従来以上の情報発信を模索したとのことであると報告があった。議会事務局の協力が濃くないと難しい一面を感じた。
--	--